

編集後記

昭和という一つの時代が終り、新しい平成の時代が静かに幕を開けました。

今、我々は、湾岸部、都市部、あるいは山岳部と様々な環境で、量的にも質的にも充分誇り得る仕事を行っていると思います。これら道路の建設や保全を行うための調査・試験や設計・施工および点検・補修などの実績は、我々公団職員のみならず、広く社会にとっても貴重なデータを提供しているものと考えられます。その意味で、今回で8回を数える『技報』の意義は大きなものがあります。

論文は、各筆者の方々の日頃の研鑽の結晶であるわけですが、各々かなり高度な内容を含んでおり、専門外の人間には必ずしも理解しやすい内容ではありませんので、導入部と結論をわかり易くすることが、今後の課題ではないかと考えられます。

最後になりましたが、編集委員長の松橋数保審議役を始め、委員、幹事の皆様および発刊に御尽力いただいた管理技術センターの関係者に深く感謝いたします。

(大志万 記)
